

経済・金融
フラッシュユーロ圏失業率(2023年5月)
—失業率は6.5%の低水準で横ばい

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

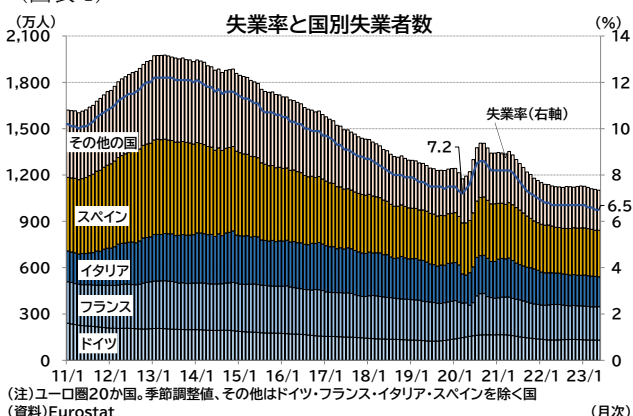
1. 結果の概要:失業率は6.5%で横ばい

6月30日、欧州委員会統計局(Eurostat)はユーロ圏の失業率を公表し、結果は以下の通りとなった。

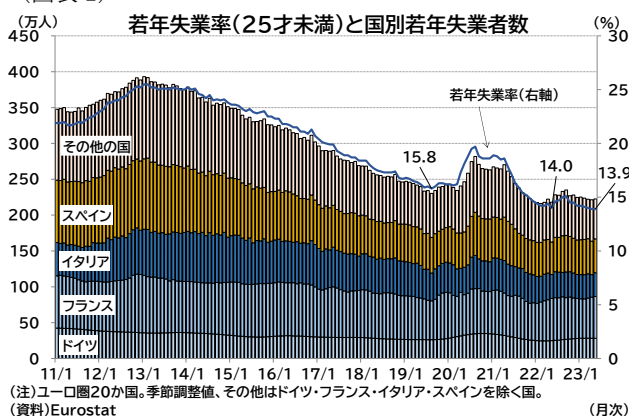
【ユーロ圏失業率(20か国、2023年5月、季節調整値)】

- ・失業率は6.5%、市場予想¹(6.5%)と一致、前月(6.5%)から横ばいだった(図表1)
- ・失業者は1101.4万人となり、前月(1107.1万人)から5.7万人減少した

(図表1)



(図表2)



2. 結果の詳細:若年失業率も13%台で横ばい推移

ユーロ圏(20か国)の5月の失業率は6.5%で、4月(6.5%)から横ばいで統計データ公表以来の最低値で推移している。また過去データにはほぼ変更がなかった。

失業者数は5月の前月差で5.7万人減となり、22年1月以降5か月連続で減少した(図表3・4)。主要4か国では、イタリア(▲3.4万人)とドイツ(▲0.1万人)では失業者が減少したが、フランス(+1.2万人)とスペイン(+1.7万人)は増加している。

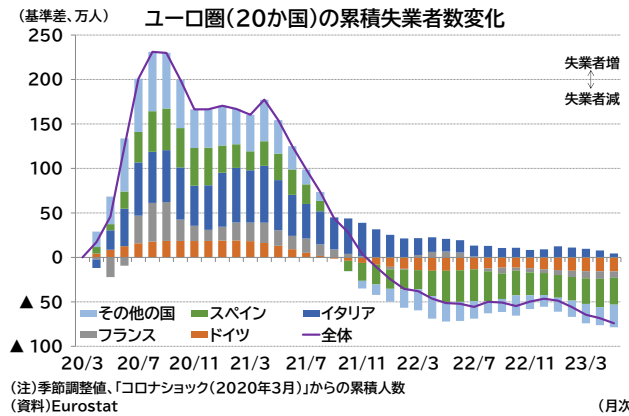
5月の若年失業率は13.9%で、4月(13.9%)から横ばい、22年5月に記録したコロナ禍後の最低値(14.0%)を下回る推移が続いている(図表2)。なお、若年失業率の過去データもほぼ変更がなかった。

若年失業者数は5月で222.6万人(前月差1.1万人)となり、23年1月以来の前月比増加となっ

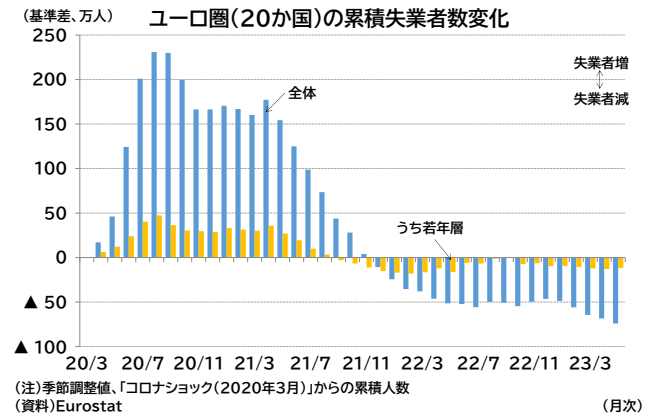
¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

た。若年失業者数はコロナ禍後の最低値（216.3万人、22年2月）を上回る状況ではあるが、コロナショック直前の水準は下回っている（図表4）。

（図表3）

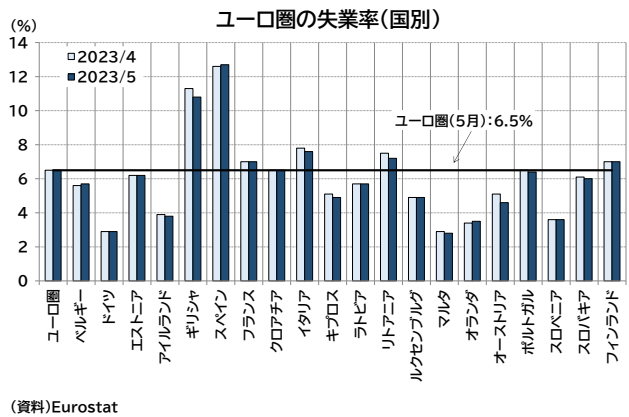


（図表4）

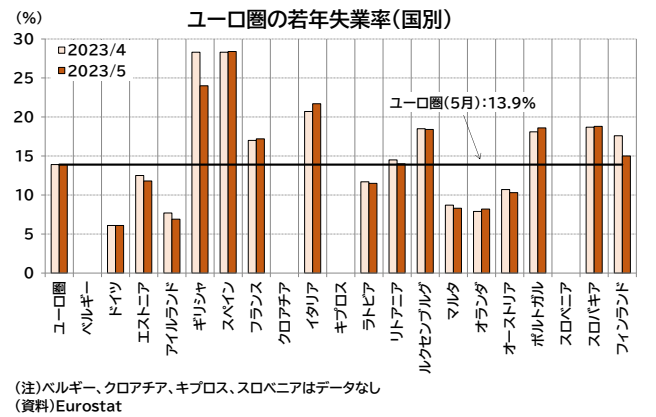


国別の4月のデータを見ると、失業率はデータが公表されている20か国中、悪化した国が3か国、改善が9か国、横ばいが8か国だった（図表5）。また、若年失業率は公表されている16か国中、悪化した国が6か国、改善が9か国、横ばいが1か国だった（図表6）。国によりバラツキはあるものの、4月に続き5月は改善した国が多かった。

（図表5）

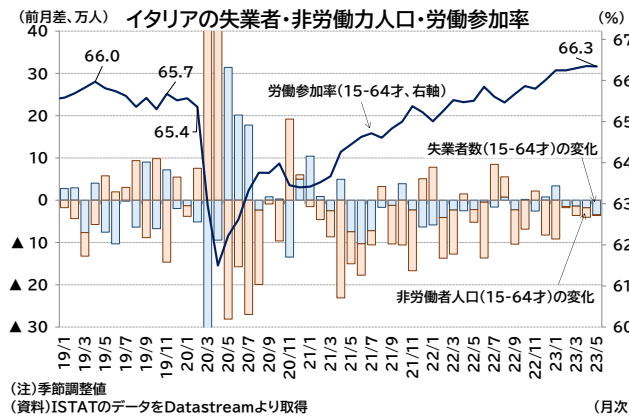


（図表6）

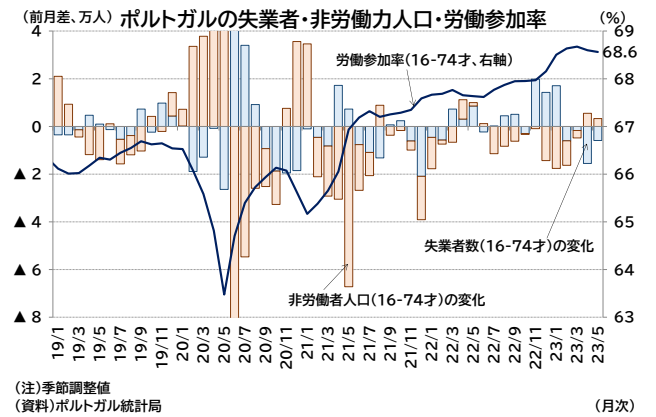


最後に詳細な月次データを公表しているイタリアとポルトガルについて確認すると、イタリアは失業者と非労働力人口が減少、就業者が増加した。労働参加率も緩やかに上昇傾向にある。ポルトガルは失業者が大幅に減少し、就業者が増加したが、非労働力人口も増加した（図表7・8）。労働参加率は足もとで頭打ちとなっているが、水準はかなり高い状況にある。

（図表7）



（図表8）



（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。